

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成21年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックに対する本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成21年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 21 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、多賀城・七ヶ浜、くろかわ、加美
美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑

(2) 対象企業数 1 5 0 企業

(3) 回答企業数 1 4 6 企業

2. 調査対象期間

平成 21 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 21 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
(2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 4
建 設 業	2 4
小 売 業	4 4
サービス業	4 4
合 計	1 4 6

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇・好転・長期化) 企業割合と減少 (低下・悪化・短期化) 企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期（平成21年4月～6月）の景況調査結果から、産業全体の業況D Iは、△66.9（前期△58.9）であり、主要3D Iは、売上額が△64.9（前期△48.2）、採算が△65.5（同△62.6）、資金繰りは△56.2（同△50.3）といずれも下降した。一部業種で大型連休、高速道路低額化、定額給付金等で売上好転したとの声もあるが、総体的には、厳しい景況調査結果となった。

業種別では、製造業、建設業の下降幅が大きく、経営上の問題として、今期も「需要の停滞」「競争の激化」が、前期から更に増加した。

別表1～4に見るとおり、各業種とも、主要項目のマイナス超幅が、全国、東北に比較して大きく、依然、厳しい景況認識といえる。

（1） 主要景況項目のあらまし

① 売上額（完成工事額）の状況

表－1の通り、製造業が前期比23.4ポイント、建設業が25.9ポイントと大幅下降、小売業、サービス業とも下降、全業種が下降した。

なお、業種ごとの回答内容については、製造業の「減少・悪化」回答が全体の79.4%（前期67.7%）と増加、建設業が66.6%（同56.0%）、サービス業が73.8%（同72.5%）と増加、依然高率を示している。

② 採算の状況

製造業、建設業、小売業が悪化。その下降幅は、小売業が16.0ポイント、建設業が11.0ポイントと大幅で、製造業が4.3ポイントの小幅な下降となった。

一方、サービス業は上昇、その上昇幅は16.0ポイントと大きい。

③ 設備投資の状況

前期に引き続き全業種が、新規設備を実施した。

製造業が全体の17.6%（前期14.3%）、建設業が8.3%（前期4.0%）とそれぞれ小幅ながら前期を上回った。来期の設備計画も、全業種に設備計画あるが、特に、製造業、建設業、サービス業については、全体の10%超の企業が実施計画を有している。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

全国、東北および宮城の調査結果から、表－1のとおり、売上額D Iは、製造業、建設業は、宮城の大幅下降に対して、全国、東北は、改善または小幅な下降であった。小売業、サービス業も、同様に全国、東北は改善あったが、宮城はいずれも下降した。

表－1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 58.4	△ 59.0	△ 58.3	△ 58.4	△ 50.1	△ 73.5
建 設 業	△ 48.9	△ 47.7	△ 43.2	△ 38.9	△ 24.0	△ 49.9
小 売 業	△ 62.7	△ 51.4	△ 62.7	△ 50.7	△ 54.6	△ 62.0
サービス業	△ 56.3	△ 46.0	△ 57.0	△ 49.6	△ 55.0	△ 69.0

② 採 算

表－2のとおり、売上高同様、全国、東北は全業種が改善、反面、宮城は全業種悪化した。売上額、採算とも数値面からも宮城の劣勢がうかがえる。

表－2 採算の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 61.2	△ 57.3	△ 65.6	△ 58.5	△ 68.5	△ 72.8
建 設 業	△ 60.9	△ 56.0	△ 67.5	△ 49.7	△ 64.0	△ 75.0
小 売 業	△ 58.0	△ 47.2	△ 62.7	△ 49.4	△ 46.6	△ 62.7
サービス業	△ 55.2	△ 46.0	△ 62.9	△ 46.9	△ 73.1	△ 57.1

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額の来期見通しは、製造業、サービス業が改善予測に対して、建設業、小売業は厳しい見通しとなった。特に、サービス業の改善幅が大きい。

採算は、建設業、サービス業が改善、他は、概ね今期並みの予測であった。

製造業の売上額予測について、今期に比較して、大幅改善予測であるが、採算予測については、横這い推移で、数値面からも依然厳しい予測結果といえる。

なお、来期の売上額で「増加・好転」の予想回答は、製造業が全体の 11.8%（前期 0%）、建設業が 8.7%（同 8.0%）と好転気配もある。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額は、表－3の通り、全国、宮城とも製造業の改善見通しに対して建設業は、共に厳しい見通しとなった。

一方、採算は表－4の通り、宮城の建設業に改善見通しあるが、他は大きな変化なく、各業種とも概ね横這い推移と予測している。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 59.0	△ 51.2	△ 73.5	△ 55.8
建 設 業	△ 47.7	△ 50.7	△ 49.9	△ 52.2
小 売 業	△ 51.4	△ 51.0	△ 62.0	△ 70.4
サービス業	△ 46.0	△ 46.0	△ 69.0	△ 42.9

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 57.3	△ 51.0	△ 72.8	△ 72.8
建 設 業	△ 56.0	△ 52.8	△ 75.0	△ 59.2
小 売 業	△ 47.2	△ 46.2	△ 62.7	△ 67.5
サービス業	△ 46.0	△ 43.9	△ 57.1	△ 47.6

2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは、前期比23.4ポイント、採算は4.3ポイント、資金繰り8.7ポイントと主要項目全てが前期に引き続き下降した。

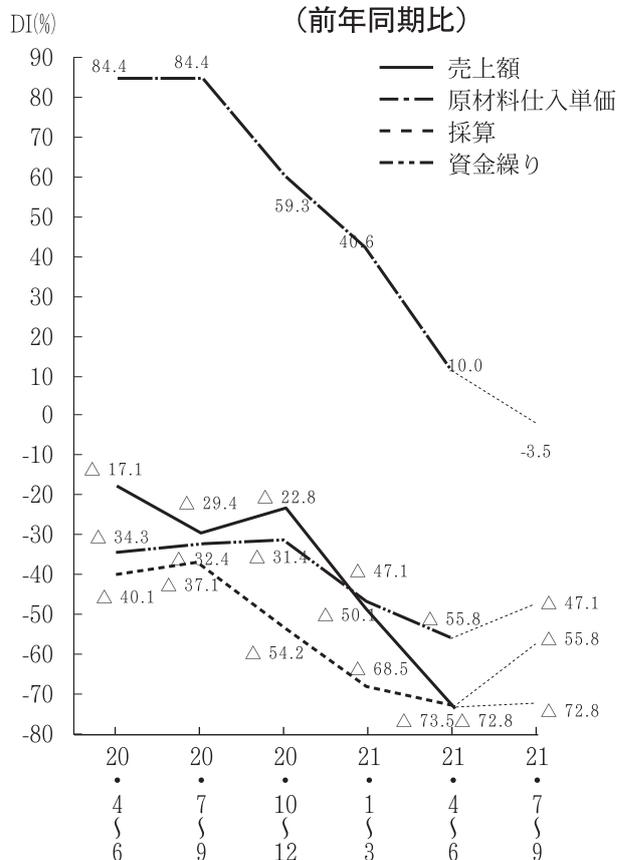
売上が「減少・悪化」の回答が全体の79.4%（前期67.7%）を占め、受注環境の厳しさがうかがえる。

一方、来期の見通しは、売上額、資金繰りが改善、採算はほぼ横這い予測となった。

経営上の問題点は「需要の停滞」を第一位に掲げた企業が全体の67.7%（前期46.9%）であり、依然需給要因が主流といえる。

新規設備実施状況は、全体の17.6%（前期14.3%）、来期の設備を計画している企業は、全体の11.8%である。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



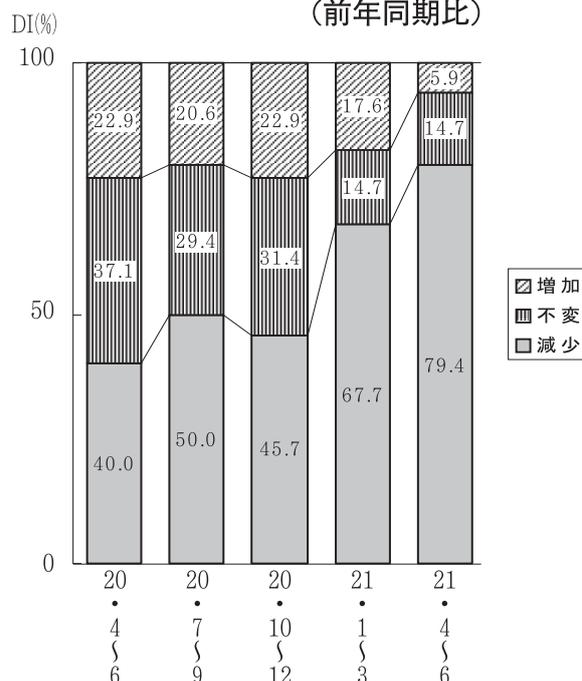
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加・上昇」と回答した企業は、全体の5.9%で前期比11.7ポイント減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比11.7ポイント増加の79.4%となり、結果として売上額DI△73.5は前期比23.4ポイントの大幅な下降となった。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)



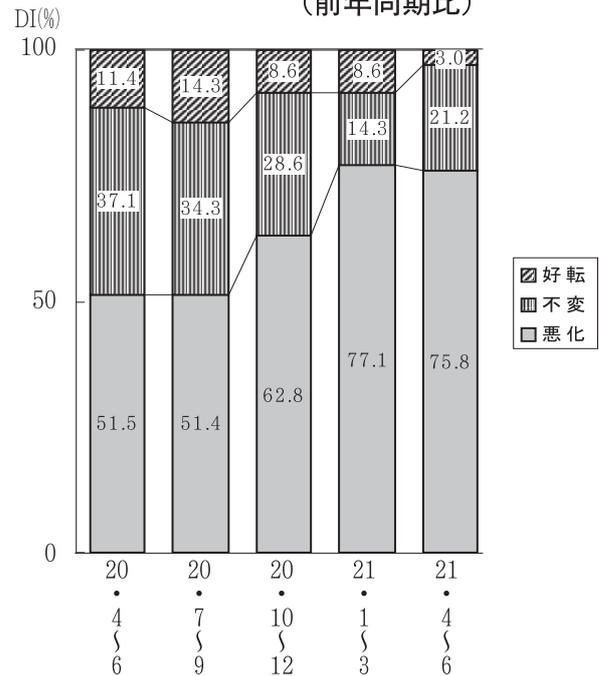
(b) 採 算

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 3.0%で前期比 5.6 ポイント減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は 75.8%(前期 77.1%)である

その結果、採算 D I は△72.8 (前期△68.5) と売上額同様に下降した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)

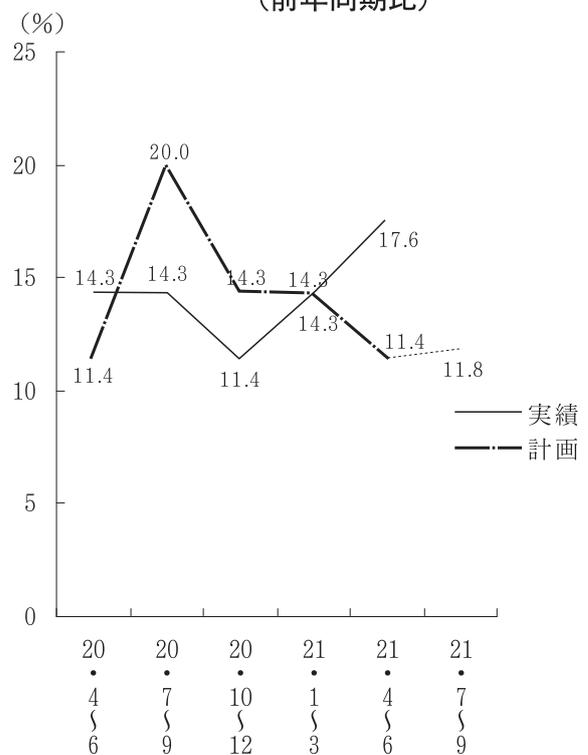


(c) 設 備 投 資

今期の新規設備実施企業割合は、全体の 17.6%で、前期 (14.3%) に比較して増加した。その設備内容は、生産設備、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 11.8%で、その設備内容は、生産設備、車両運搬具、OA機器等を計画している。

図 1 - 4 設備投資の状況
(前年同期比)



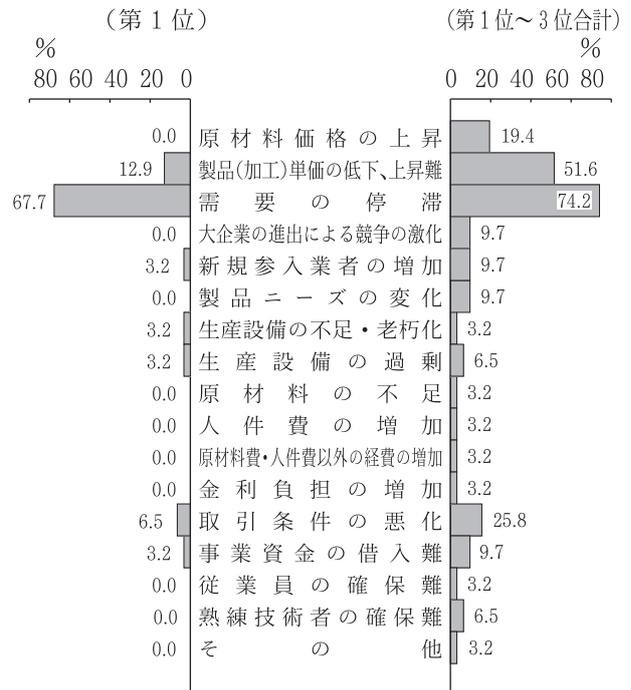
(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」が全体の67.7%、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」が12.9%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が74.2%(複数回答以下同じ)、「製品単価の低下・上昇難」51.6%、「取引条件の悪化」が25.8%と続いている。

今期は、「需要の停滞」が大幅に増加した。

図1-5 経営上の問題点



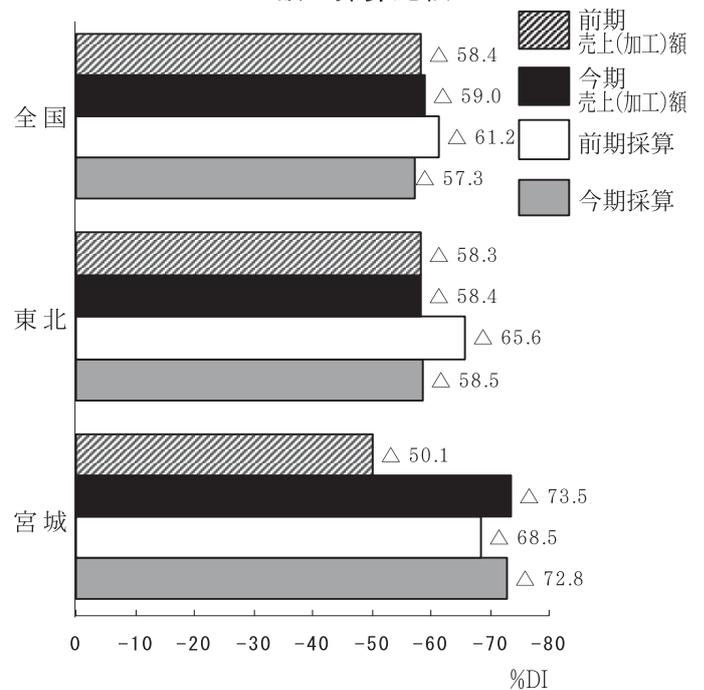
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北は概ね前期並みの推移に対して、宮城は大幅な下降を示した。

一方、採算DIは、売上額同様、全国、東北が改善、宮城は下降した。

なお、業況(自社)DIは、全国が△58.7(前期△60.0)、宮城は△75.0(前期△55.9)であり、自社の業況認識についても全国との差は大きい。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

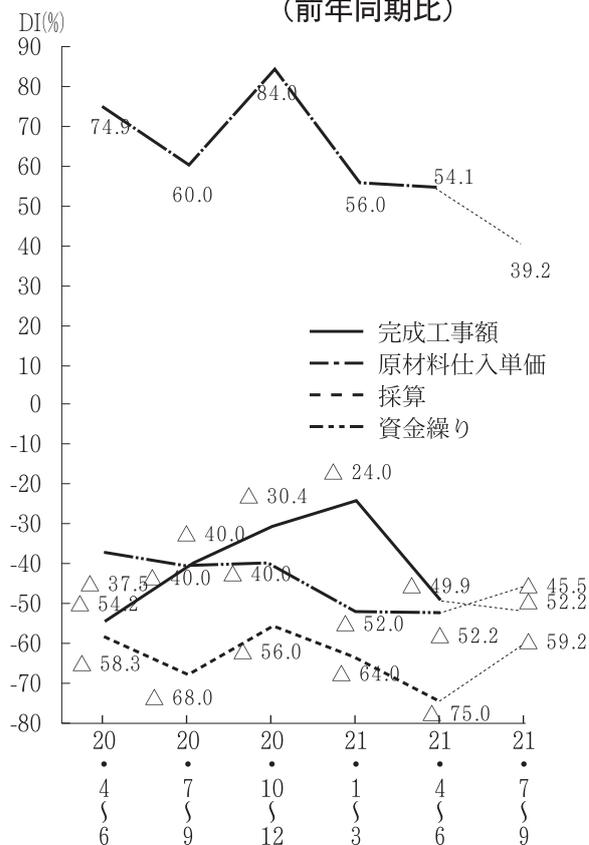
完成工事額は、前期比 25.9 ポイント、採算は 11.0 ポイント悪化、資金繰りは、横這い推移であった。

経営上の問題点として、「民間需要の停滞」「請負単価の低下・上昇難」「官公需要の停滞」が依然高率を占めている。

なお、業況DI Δ 70.8(前期 Δ 56.0)と悪化、自社の業況認識については依然厳しい。

来期見通しについては、完成工事高は、更に悪化予想。採算は、改善予測となった。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

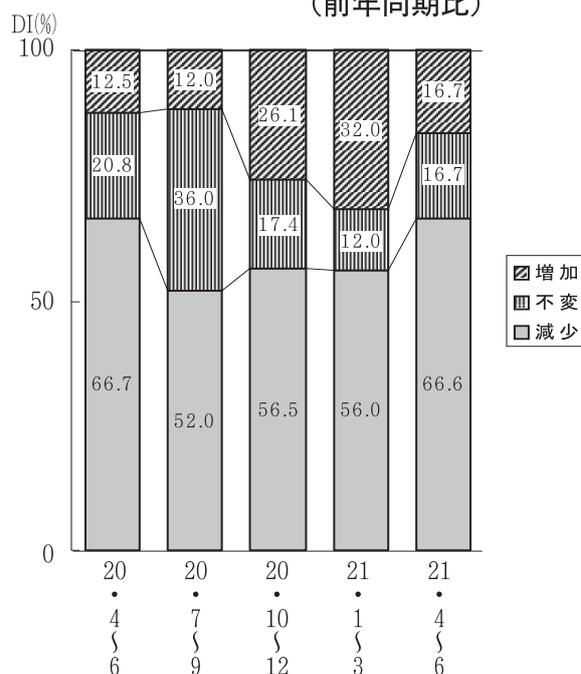
(a) 完成工事額

前年同期比で「増加・上昇」回答は全体の 16.7%(前期 32.0%)で大幅に減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、全体の 66.6%(同 56.0%)に増加、その結果、完成工事高DIは Δ 49.9で前期比 25.9 ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通しは、更に下降するとの予測であり、厳しい経営環境がうかがえる。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)



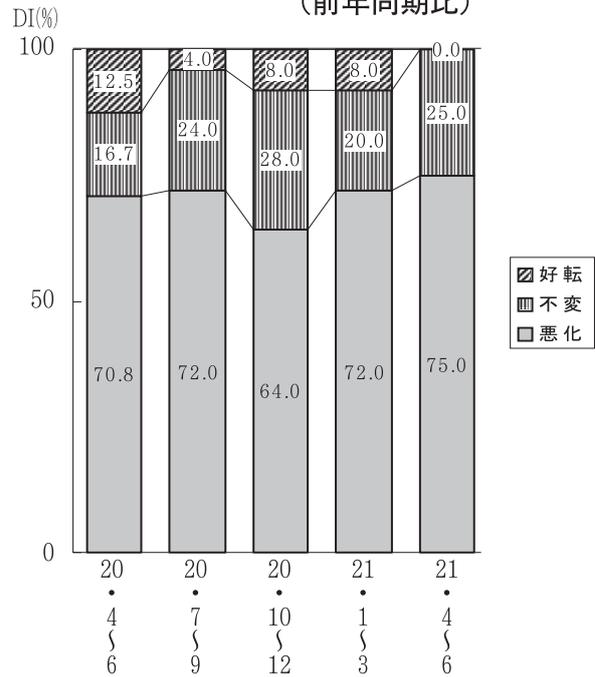
(b) 採 算

前年同期比「好転・上昇」の回答は、皆無であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比 3.0 ポイント増加の 75.0%で、採算 D I は、前期比 11.0 ポイント下降して△75.0 となった。

来期の採算見通しは、今期比 10.0 ポイント超の改善見通しとなった。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)

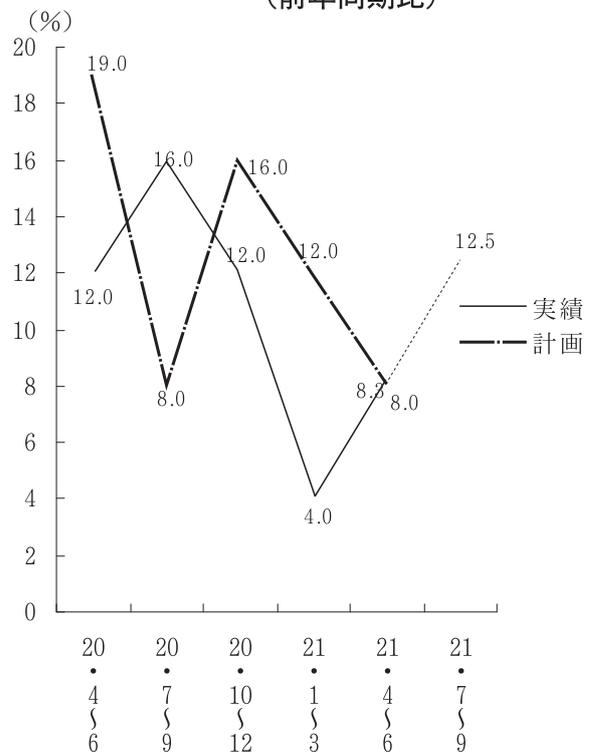


(c) 設 備 投 資

今期、新規設備を実施した企業は、全体の 8.3%で、その設備内容は、車両運搬具、OA 機器等である。

来期に設備計画している企業は、全体の 12.5%と増加、その設備内容は、建物、機械設備、車両運搬具等を計画している。

図 2 - 4 設備投資の状況
(前年同期比)



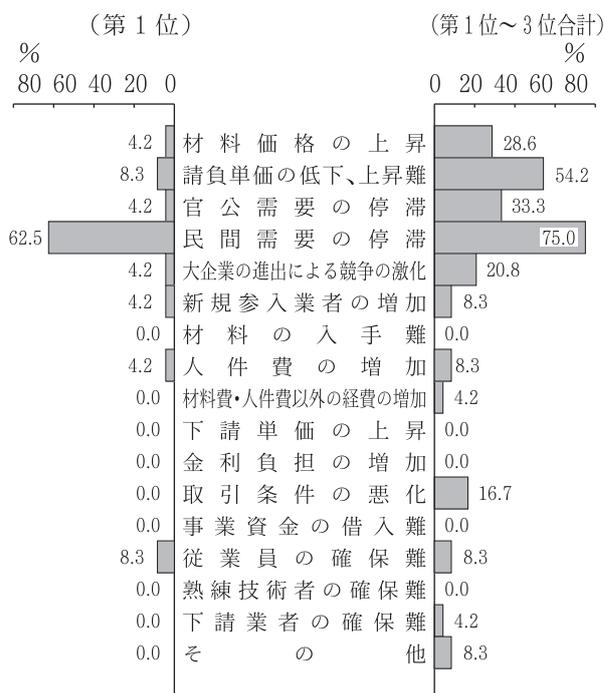
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」が62.5%、「請負単価の低下・上昇難」及び「従業員の確保難」8.3%の結果となった。

重要度第1位から第3位合計では「民間需要の停滞」が75.0%（複数回答以下同じ）、「請負単価の低下・上昇難」が54.2%「官公需要の停滞」が33.3%と続いた。

経営上の問題として、今期は、「民間需要の停滞」が前期に引き続き大幅に増加した。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

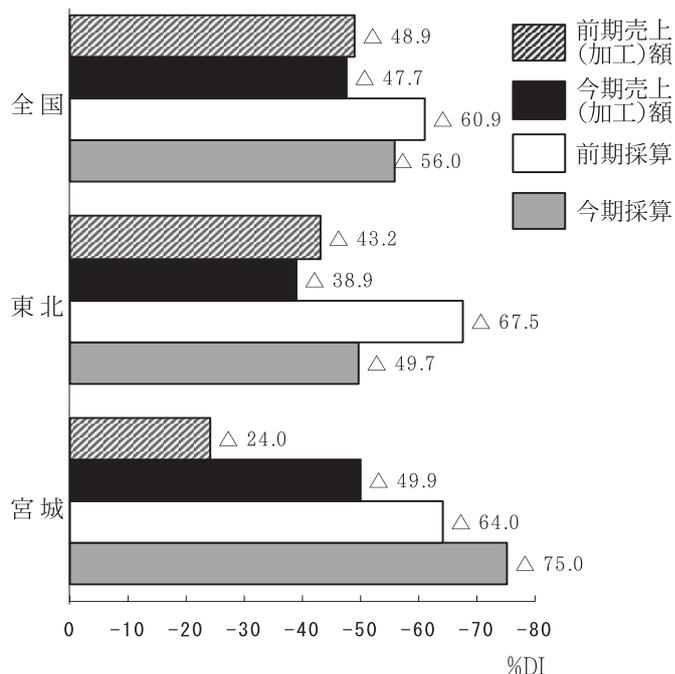
売上額(完成工事額)は、全国、東北が小幅ながら上昇、宮城は、大幅に下降した。

採算は、宮城が下降、全国、東北は改善、特に東北は17.8ポイントと改善幅が大きい。

来期見通しについては、売上額(完成工事高)は、全国、宮城ともに悪化予想となった。

採算は、全国、宮城とも改善予測であるが、全国は小幅な改善予測である。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



(3) 小売業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

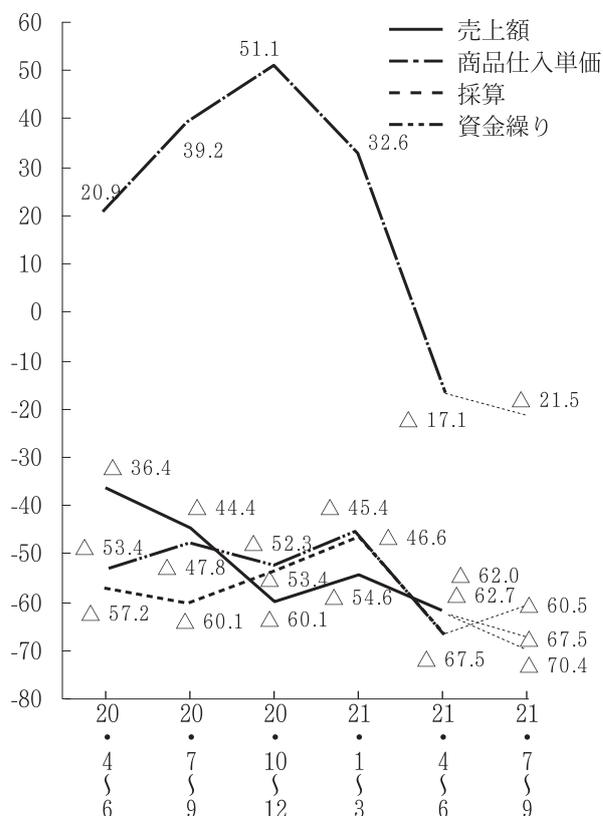
売上額D Iは7.4ポイント、採算D Iは16.1ポイント前期に比較して下降した。

自社の業況D Iについては△65.8（前期△56.0）に下降した。

資金繰りD Iは、前期比22.1ポイント下降の△67.5と厳しい結果となったが、借入難度については、長・短期資金ともに大きな変化は無い。

来期の見通しは、売上額、採算が悪化、資金繰りは、小幅ながら改善の見通しとなった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

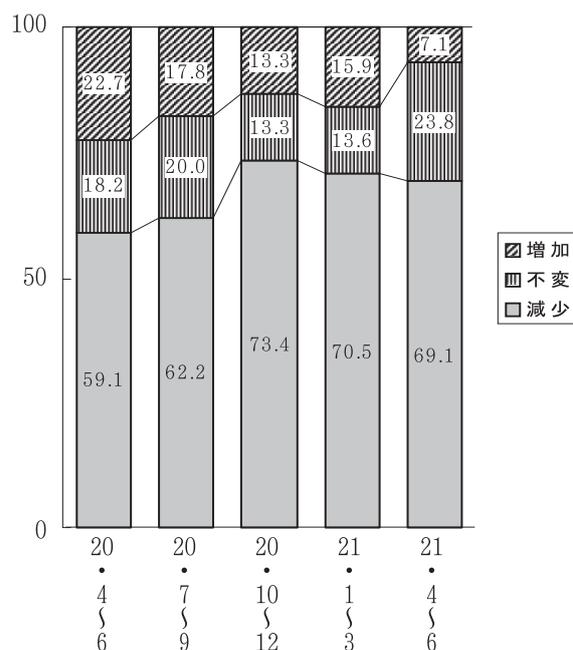
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の7.1%（前期15.9%）と減少した。

一方、「減少・悪化」の回答は全体の69.1%（前期70.5%）と高率ながら若干減少した。

その結果、売上額D Iは前期比7.4ポイント下降した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)



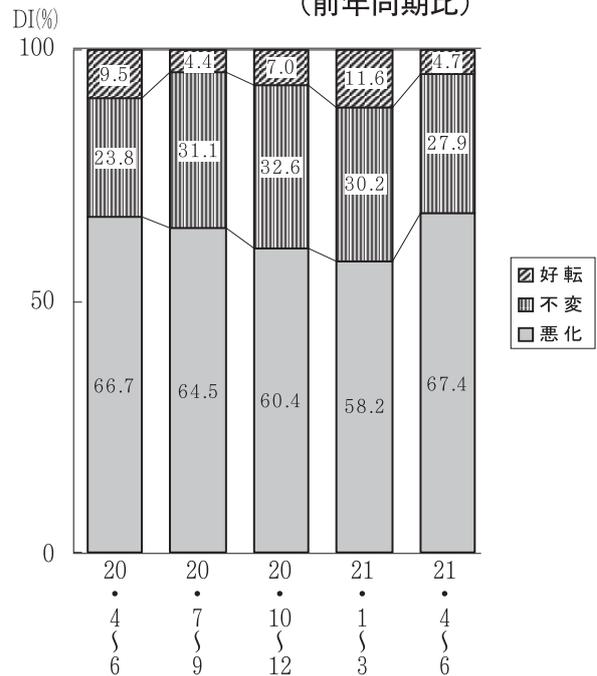
(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は、全体の4.7%で前期比6.9ポイント減少。

一方、「悪化・低下」の回答は全体の67.4%で前期比9.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△62.7となり、前期比16.1ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

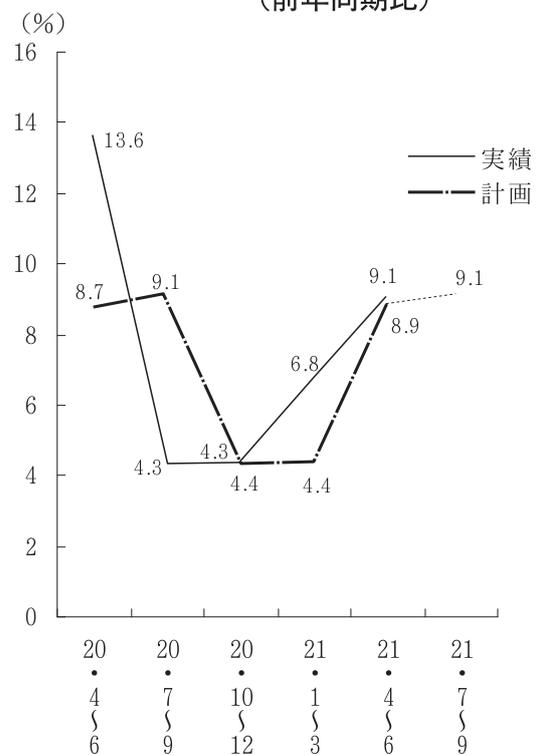


(c) 設 備 投 資

今期の設備実施企業割合は、全体の9.1%（前期6.8%）と小幅増加。その内容は、車両運搬具、OA機器、その他である。

来期に設備計画している企業は、今年同率の9.1%で、その内容は、土地、店舗、OA機器等を計画している。

図3-4 設備投資の状況
(前年同期比)

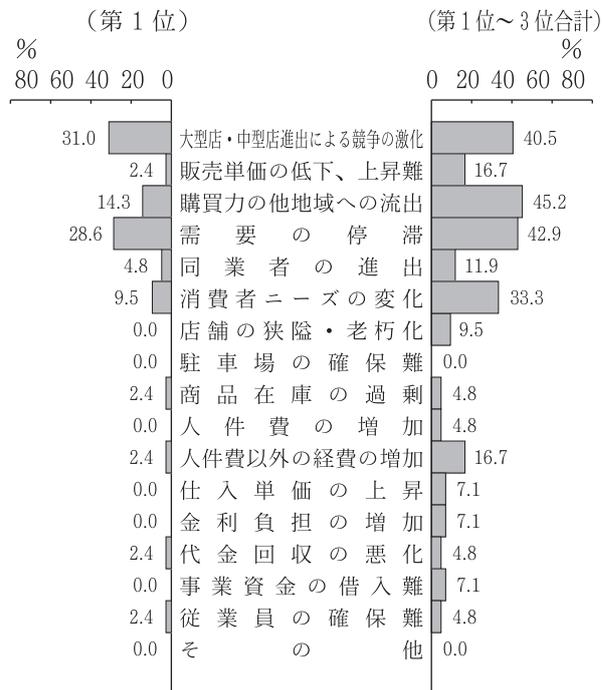


(d) 経営上の問題点

重要度第1位では、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が31.0%、次いで、「需要の停滞」28.6%、「購買力の他地域への流出」が14.3%と続いている。

重要度第1位から第3位合計は「購買力の他地域への流出」が45.2%(複数回答以下同じ)、「需要の停滞」が42.9%、「大型店・中型店進出による競争の激化」が40.5%、「消費者ニーズの変化」が33.3%の結果となった。

図3-5 経営上の問題点



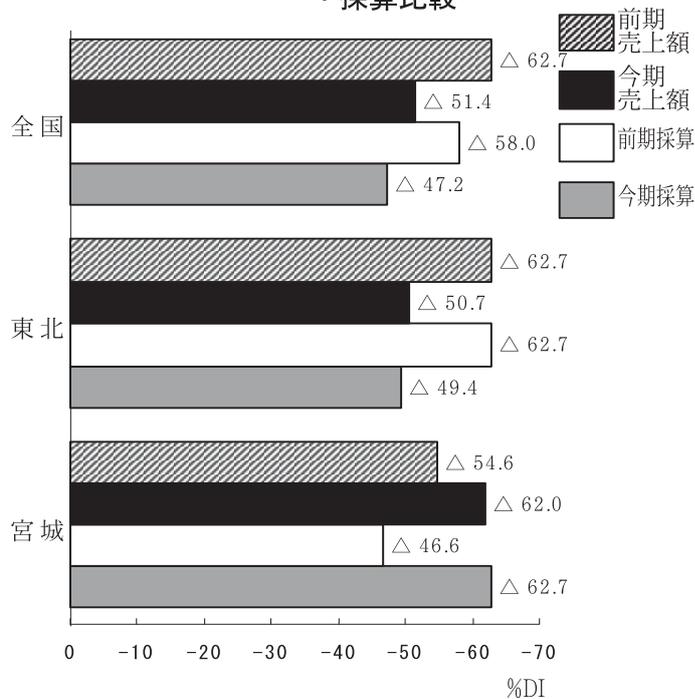
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北が上昇、宮城は下降した。全国、東北は共に10.0ポイント超の上昇である。

採算は、売上額同様、全国、東北が上昇、宮城は下降した。

一方、業況(自社)DIは、全国が△49.0(前期△58.7)に改善、反面、宮城は△65.8(同△56.0)と悪化した。自社の業況認識についても格差がみられる。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは、前期比14.0ポイント下降したが、採算は、16.0ポイント上昇した。

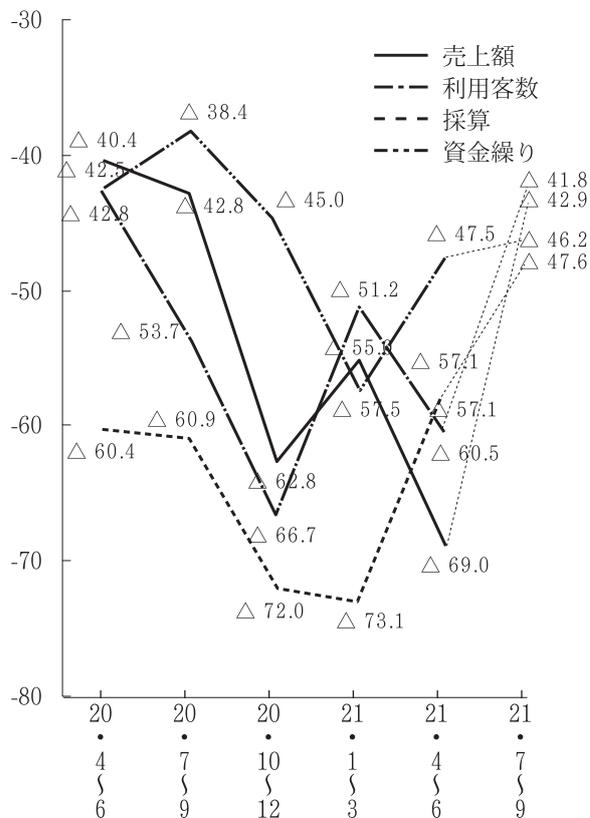
資金繰りも10.0ポイント改善、長・短資金借入れ難度も大幅に改善した。

一方、客単価は改善したが、利用客数が悪化、特に、「利用客数が減少」との回答が全体の72.1%（前期68.3%）を占めた。

業況（自社）D I Δ 59.4（前期 Δ 66.6）と小幅ながら改善された。

来期見通しについては、売上額、採算、資金繰り共に改善予測となった。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

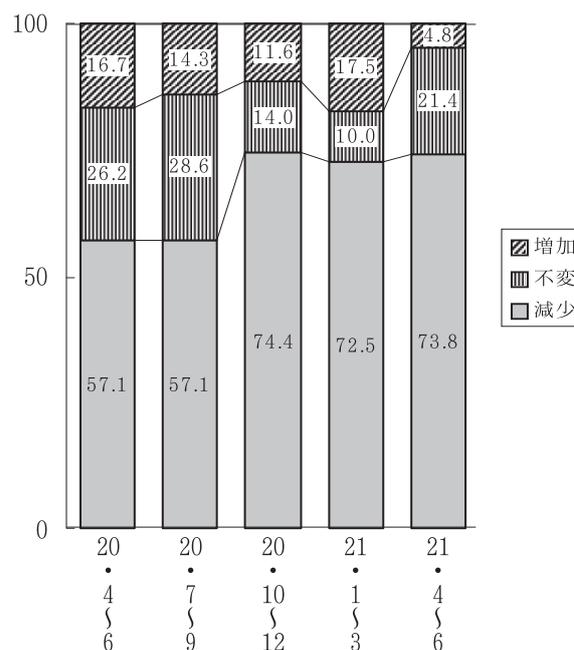
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」の回答は、12.7ポイント減少の4.8%である。

一方、「減少・悪化」の回答は、全体の73.8%となり、前期比1.3ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは Δ 69.0となり、前期比14.0ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)



(b) 採 算

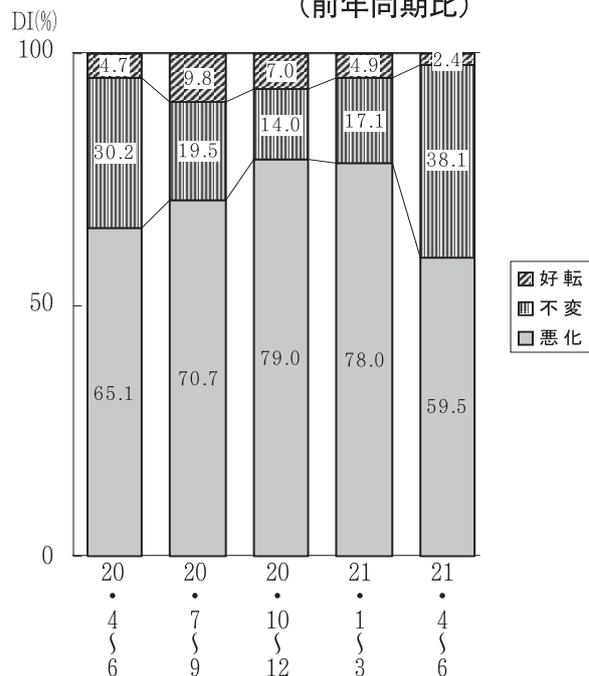
「上昇・好転」と回答した企業は、全体の2.4%（前期4.9%）であった。

一方、「低下・悪化」の回答企業は、全体の59.5%であり、前期比18.5ポイントと大幅な減少を示した。

その結果、採算DIは△57.1となり、前期比16.0ポイントと大きく改善された。

売上高が厳しい反面、採算面の改善が示された結果となった。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



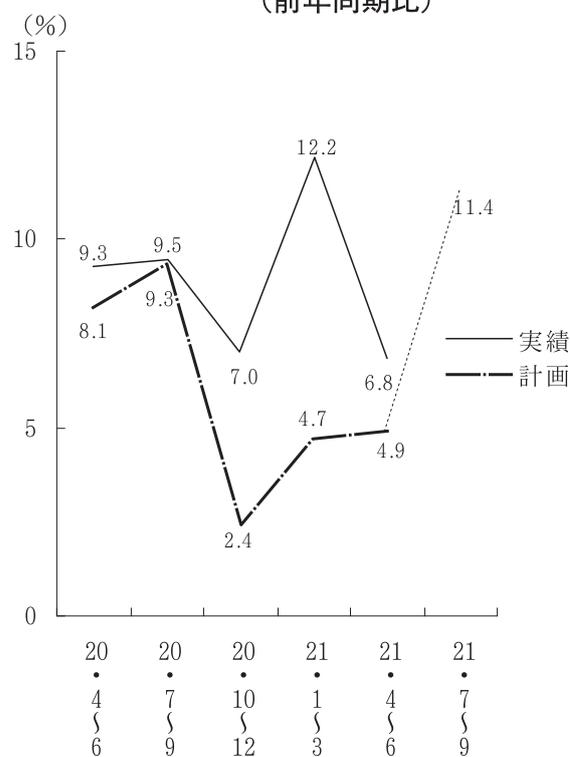
(c) 設 備 投 資

今期、設備を実施した企業は、全体の6.8%（前期12.2%）と減少した。

その設備内容は、土地、建物、付帯設備等である。

来期に設備計画している企業は、全体の11.4%であり、その内容は、建物、サービス、車両運搬具、付帯設備等を計画している。

図4-4 設備投資の状況
(前年同期比)

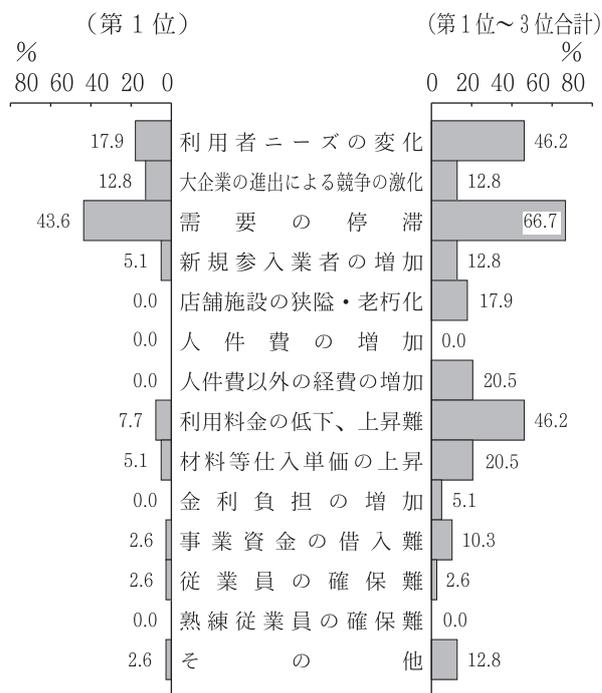


(d) 経営上の問題点

重要度第1位では、「需要の停滞」が43.6%、「利用者ニーズの変化」17.9%、「大企業進出による競争の激化」が12.8%と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が66.7%(複数回答以下同じ)、「利用者ニーズの変化」及び「利用料金の低下、上昇難」が46.2%の順となっている。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

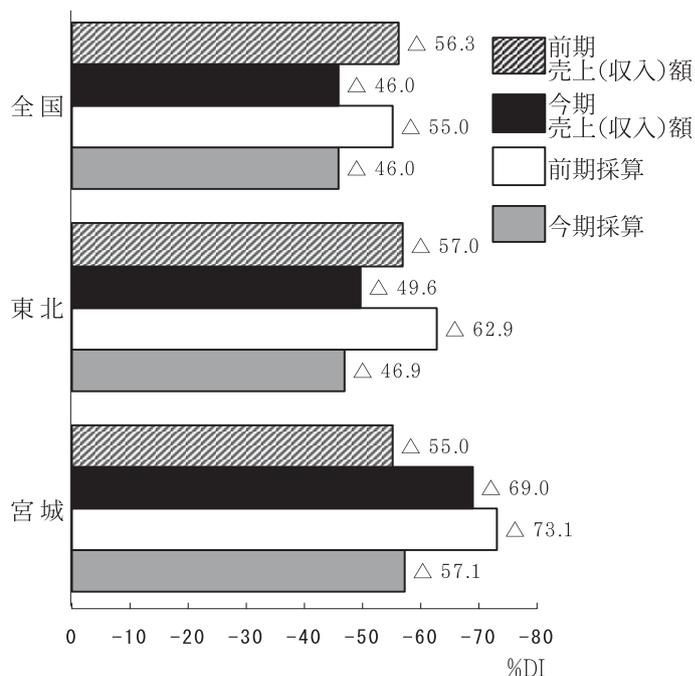
売上額DIは、全国、東北が上昇、宮城は下降した。全国の上昇幅が10.3ポイントと大きい。

採算DIは、全国、東北、宮城とも改善した。特に、東北、宮城の改善幅は、ともに16.0ポイントと大きい。

資金繰りDIは全国、宮城とも改善、特に宮城の改善幅が10.0ポイントと大きい。

業況(自社)DIについては、全国が△45.1(前期△56.1)、宮城は△59.4(同△66.6)であり、ともに改善された。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています